

2. 全学共通科目の履修

京都大学の教養教育は、主として「全学共通科目」によって担われています。全学共通科目は、各学部の枠を越えて原則として全学部の学生を対象として開講される授業科目です。

全学共通科目は、平成 24 年度までは、A、B、C、D、EX の 5 つの群に区分され開講されていましたが、平成 25 年度からの①人文・社会科学系科目群、②自然・応用科学系科目群、③外国語科目群、④現代社会適応科目群、⑤拡大科目群の 5 つの科目群区分を経て、平成 28 年度からは、①人文・社会科学科目群、②自然科学科目群、③外国語科目群、④情報学科目群、⑤健康・スポーツ科目群、⑥キャリア形成科目群、⑦統合科学科目群、⑧少人数教育科目群の 8 つの科目群に区分され、開講されています。これをもとに各学部は、p.175 以下に示すように、卒業までに修得すべき全学共通科目の単位数を定めています。なお、平成 27 年度以前入学者については、従来のおおりの卒業要件が適用され、平成 24 年度以前入学者は科目毎に A、B、C、D、EX の 5 つの群に読み替えられることになり、平成 25～27 年度入学者は p.210 の表のおおりに読み替えられます。一部の科目は、単位を修得しても卒業に必要な単位としては認定されませんので注意してください。

それぞれの科目群には、基礎から高度な内容にわたる多様な科目が提供されていますが、それらの科目の選択は基本的には学生諸君の自由な意志に委ねられています。この条件を生かし、限られた時間いかに効果的に修得するかは、諸君の自律性に依るものです。高い志を持ち、学習計画を十分に吟味することを期待します。

◆科目群について

① 人文・社会科学科目群

人文・社会科学科目群は、以下の 8 つの分野に区分されています。

哲学・思想、歴史・文明、芸術・文学・言語、教育・心理・社会、地域・文化、法・政治・経済、日本理解、外国文献研究

また、それぞれの分野の中で科目の性質を示す区分として、以下の 2 つに分けられています。

基礎：基礎的な知識・概念等を講義するもの

各論：より踏み込んだ内容に触れる、あるいは、より限定されたテーマを取り扱うもの、少人数で文献講読や研究発表を行うもの

【平成 24 年度以前入学者】

人文・社会科学科目群は、ほぼ A 群に相当しますが、A 群複合系列を中心に、キャリア形成科目群、統合科学科目群等に移行した科目もあります。また、従来外国語科目群で開講されていた英語 II (2 回生専用クラス) および文学部英語、英語 (教育学部) 等の各学部が提供する英語が移行した外国文献研究分野の科目を履修した場合は、C 群科目として取り扱われます。

② 自然科学科目群

自然科学科目群には、数学、統計、物理学、化学、生物学、地球科学、図学分野の科目が多様に提供されています。

これらの中では、主に専門教育との関連において一般的基礎となる基礎科目や、全学的に共通の教養科目があります。基礎科目においては、標準履修年限を指定しクラス単位の履修を原則としている科目 (講義、実験等) があります。学部によって、基礎科目の履修に一定の要件を定めているところがあります。また教養科目の中には、特に文系学生を対象として開講されているものもあります。

【平成 24 年度以前入学者】

自然科学科目群は、ほぼ B 群に相当しますが、情報教育科目が情報学科目群に移行する等、他の科目群に移行した科目もあります。

③ 外国語科目群

全学共通科目として開講している外国語科目には、次の 10 カ国語の科目があります。

英 語

初修外国語：ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、朝鮮語、アラビア語、日本語（外国人留学生用）

それぞれ1回生用のクラスと2回生（以上）用のクラスに区分されており、1回生用のクラスは、科目により履修クラスが指定されています。

【平成24年度以前入学者】

外国語科目群は、C群に相当します。

④ 情報学科目群

情報学科目群は、従来自然・応用科学系科目群と現代社会適応科目群に分かれていた情報系科目を集約して設けられた群です。

【平成24年度以前入学者】

情報学科目群には、A群社会科学系・複合系の一部科目とB群情報教育科目が移行しています。

⑤ 健康・スポーツ科目群

健康・スポーツ科目群は、以下の2つに区分されています。

健康・スポーツ科学、スポーツ実習

現代社会適応科目群にあった健康科学系科目と、拡大科目群にあったスポーツ実習が、健康・スポーツ科目群として独立したひとつの群に集約されました。

【平成24年度以前入学者】

健康・スポーツ科目群は、D群に相当します。

⑥ キャリア形成科目群

キャリア形成科目群は、コンプライアンス、国際コミュニケーション、学芸員課程、COCOLO域、その他キャリア形成の5つの分野に区分されています。

また、平成28年度以降の入学者が、大学コンソーシアム京都単位互換科目を履修し、単位を修得した場合はキャリア形成科目群の科目として取り扱われます（p.76参照）。

国際コミュニケーション分野には、従来外国語科目群で開講されていた英語Ⅱ（2回生専用クラス）および拡大科目群のキャリア支援科目として開講されていた英語のスキルアップ等に関わる科目が、COCOLO域分野には、拡大科目群の地域交流・貢献科目として開講されていた科目が、それぞれ移行しています。

平成28年度に国際交流分野で開講されていた科目は、平成29年度から少人数教育科目群に移行し、ILASセミナー（海外）として開講されます。

【平成24年度以前入学者】

国際コミュニケーション分野の一部科目はA群から移行しています。国際コミュニケーション分野の科目を履修した場合は、C群科目として取り扱われますが、一部旧群が設定されていない科目もありますので、確認の上、履修してください。

⑦ 統合科学科目群

統合科学科目群には、統合科学、環境、森里海連環学、その他統合科学の4分野が設けられています。

【平成24年度以前入学者】

A群とB群で開講されていた環境系の科目が移行しています。統合科学分野は、旧群が設定されていないので、履修にあたっては注意してください。

㊦ 少人数教育科目群

少人数教育科目群は、従来の拡大科目群の少人数教育科目（ポケット・ゼミ）、人文・社会科学系科目群の前期基礎ゼミナール等が集約されて、独立したひとつの科目群を形成しています。名称が示すように、履修者数に上限が設けられています。海外での実地研修を目的とした科目も開講されています。

【平成 24 年度以前入学者】

A 群の基礎ゼミナールまたは国際交流科目、A 群または B 群のポケット・ゼミから移行した科目もありますが、旧群への読み替えはしません。履修することは可能ですが、卒業に必要な単位としては認定されないことに注意してください。

E 科目

国際高等教育院では、学生の英語によるコミュニケーション能力の向上と国際性の涵養を図るため、全学共通科目で開講されている科目の中から、英語力強化に資すると考えられる科目を選び、E 科目として指定しています。

外国語として「英語を学ぶ」だけでなく、「英語で学ぶ」ことはみなさんの英語力を一層向上させ、国際的な学問研究や社会の様々な分野で活躍することにつながるものと考えますので、みなさんの積極的な受講を期待します。詳細は p.65 を参照してください。